

①【財政運営】「過去最大235億円の乖離」予算編成の価値基準が不透明である

■質問の概要

国の財政運営が不安定化し、地方自治体には主体的な財政判断が求められている。越谷市の令和8年度予算は、要求段階で歳入歳出の乖離が過去最大の235億円に達した。私は、市がどのようなリスク認識で予算を編成し、限られた財源をどの価値基準で配分したのかを市長に質した。

■問題点

市は「緊急性・必要性・投資効果」で優先順位を判断したと説明するが、その基準は市民に共有されていない。基金の大量投入で帳尻を合わせる構造が続き、財政運営の透明性が欠如している。市民が政策判断の根拠を理解できないまま予算が成立している点が最大の問題である。

■私の見解

財政の持続可能性を確保するには、「何を守り、何を見直すのか」という価値基準を明確に示す必要がある。事業評価の公開、基金依存からの脱却、予算編成プロセスの透明化を進め、市民と共有できる財政運営へ転換すべきである。

②【自治の根幹】「自治基本条例15年」理念は生きているか、制度は機能しているか

■質問の概要

自治基本条例は「市政運営の最高規範」とされながら、制定から15年が経過した。私は、立憲主義の観点、市民参加の仕組み、推進会議の役割、条例改正の必要性、常設型住民投票条例の導入について市長に質した。

■問題点

推進会議は長年「周知」に偏り、制度改善や検証が十分に行われていない。行政権の自己拘束という立憲主義の核心部分が実効性を伴っておらず、市民参加の仕組みも形式化している。常設型住民投票条例については15年間議論すら行われていない。

■私の見解

自治の理念を現代化し、実効性を伴う制度へ再構築する必要がある。子どもの権利、多様性、市民自治の強化は不可欠である。常設型住民投票条例の検討も含め、市民参加の制度的保障を進め、自治基本条例を「生きた最高規範」にすべきである。

③【孤独・孤立】「見えない孤立」市は実態をどこまで把握しているのか

■質問の概要

孤独・孤立対策推進法の施行を受け、越谷市が現状をどのように把握し、どのような施策を展開するのかを質した。特に、潜在的な孤立層へのアプローチや地域のつながり再構築の具体策を確認した。

■問題点

相談窓口や居場所づくりは進んでいるが、最も重要な「実態把握」が不十分である。支援を求められない層ほど孤立が深刻であり、現状の把握方法では潜在的な問題を捉えきれない。予防的な視点が弱く、孤立の深刻化を未然に防ぐ仕組みが不足している。

■私の見解

孤独・孤立は“見えない社会課題”であり、行政が待ちの姿勢では支援が届かない。データに基づく政策立案とアウトリーチ型支援を強化し、市全体の横断的政策として位置づけるべきである。地域のつながりを再構築するための仕組みづくりを急ぐ必要がある。

〒343-0045 越谷市下間久里477-12
TEL&FAX 048-979-3027
http://hshirakawa.net
shirakawa110@gmail.com

3月市議会
代表質問
特集号

越谷市議会議員
白川ひでつぐ

長屋から幕政変える心意気。一心太助幕政に物申す

市政 レポート

見えない 課題に光を当てる

3月越谷定例市議会は、2月24日から3月18日の会期で開催された。今議会では、令和8年度の市政全体に対する市長の施政方針や教育長の教育行政方針、当初予算（総額2200億円余）に対する、6会派の代表質問が行われた。私はこしがや無所属の会（4人）の代表として7項目の代表質問にたった。



白川 秀嗣

No96
発行：
2026.4

④【公共施設】「40%削減方針」 財政だけで未来は描けない

■質問の概要

越谷市は今後40年間で公共施設を40%削減する方針を示しているが、その根拠は財政シミュレーションに依存している。私は、都市計画との整合性、市民合意形成のあり方、判断基準の明確化を市長に質した。

■問題点

削減方針は財政シミュレーションに偏り、都市計画マスタープランとの整合性が不明確である。市民参加のプロセスも限定的で、声の大きさに左右される危険性がある。施設再編の判断基準が示されておらず、市民が将来像を共有できていない。

■私の見解

公共施設再編は「削減」ではなく「まちの未来像」を描く作業である。都市計画との整合性、判断基準の明確化、市民参加の強化が不可欠である。市民とともに将来像を共有し、その上で再編を進めるべきである。

3月議会での 質問通告書

- | | | |
|-------------------------|--------|---|
| 1 市長の施政方針と令和8年度当初予算について | ▶ | ① 令和8年度政府予算の地方財政計画の評価について
② 越谷市の予算編成方針と当初予算要求と決定プロセスについて |
| 2 越谷市自治基本条例について |▶ | ① 立憲主義について ② 改正について
③ 住民投票条例について |
| 3 孤独・孤立対策について |▶ | ① 孤独・孤立対策推進法について
② 越谷市の孤独・孤立対策について |
| 4 越谷市公共施設等総合管理計画について |▶ | ① 計画の現状と課題について
② 市民合意について |
| 5 越谷市公契約条例について |▶ | ① 現在までの成果と今後の課題について |
| 6 地球環境問題について |▶ | ① 社会的弱者対策について |
| 7 不登校・いじめ問題について |▶ | ① 教育機会確保法の主旨について
② 現状の認識と対応の不十分の理由について
③ 越谷市総合教育会議及び学校運営協議会の役割と課題について
④ 今後の方向性について |



⑤【公契約条例】「効果はあるが見えにくい」 検証と周知が次の課題である

■質問の概要

越谷市公契約条例は労働環境改善や地域経済への効果を生んでいる。私は、これまでの成果の整理、効果検証の仕組み、周知不足の課題、今後の制度改善の方向性について市長に質した。

■問題点

労働環境改善の効果は一定示されているが、効果検証の仕組みが弱く、市外事業者への周知不足も課題である。地域経済への波及効果を測る指標が整備されていない。制度の成熟に必要なデータが不足している。

■私の見解

公契約条例は越谷市の強みであり、全国的にも先進的である。だからこそ、効果測定と制度改善が不可欠である。労働条件改善や地域経済への影響を定期的に検証し、制度の成熟を図るべきである。

⑥【環境と弱者】「エアコン未設置」 命を守る支援は十分か

■質問の概要

猛暑の深刻化に伴い、生活保護世帯・非課税世帯のエアコン未設置問題や支援策について市長に質した。特に、実態把握の不足と電気代負担など複合的な課題への対応を問うた。

■問題点

生活保護世帯の未設置は把握されているが、非課税世帯については「把握していない」との答弁であった。最も支援が必要な層ほど行政に相談できず、実態が見えないまま支援策が議論されている。熱中症リスクが高まる中、現状の把握不足は重大な課題である。

■私の見解

猛暑は命に関わる問題である。エアコンの有無だけでなく、電気代負担や生活環境まで含めた総合的支援が必要である。市は積極的に実態調査を行い、弱者を守る支援体制を強化すべきである。

⑦【教育】「不登校700人・重大事態増加」 教育行政のガバナンス再構築が急務である

■質問の概要

不登校が700人規模で高止まりし、いじめ重大事態も増加している。私は、教育機会確保法の趣旨、現状認識、教育委員会のガバナンス、学校運営協議会の機能不全、今後の方向性について市長・教育長に質した。

■問題点

相談窓口や居場所づくりは進んでいるが、最も重要な「実態把握」が不十分である。支援を求められない層ほど孤立が深刻であり、現状の把握方法では潜在的な問題を捉えきれない。予防的な視点が弱く、孤立の深刻化を未然に防ぐ仕組みが不足している。

■私の見解

孤独・孤立は“見えない社会課題”であり、行政が待ちの姿勢では支援が届かない。データに基づく政策立案とアウトリーチ型支援を強化し、市全体の横断的政策として位置づけるべきである。地域のつながりを再構築するための仕組みづくりを急ぐ必要がある。